



かさはな通信 No. 109

以下は「300年の本願信すべし」という信国淳先生の講義の一部です。昭和55年2月5日に命終されて早42年も経ちました。しかし阿弥陀仏の本願を説く先生の声は、少しも古びることがありません

* * * *

聖人の真実の我とは、不思議の仏智といわれる仏の無分別智を信じる我であり、その仏の無分別智に依りながら、我が身と我が身の生きる生处しよじょである土(地)とを、もはや二つに分けたり、引き離したりすることがなく、したがって我が身の生きる生处を自己の思うまま、欲するままにしようとするの無い、それこそ全く「滞離欲」の我、欲を離れたい我なんです。聖人のその「真実の我」とは、むしろ、私どもお互いに与えられ、私どもお互いを生かしている、その身土不二なるいのちをこそ、そのまま我がいのちとして受け入れながら、それから生かされてこそ素直に生きようと願っている、—仏の願われるままに生きようと願ってやまぬ我なんです。だから我が身の生きるいのちの私、有化から解脱放されて、我が身の生きるどんな生处にも進んで随って「随処にまよって」生きることのできる「自在人」としての我なのです

○「御名を聞く会」はオミクロン感染拡大のため休会といたします。 勝福寺